

練馬稲門会 練稲 Press

45周年記念総会を盛大に開催



練馬稲門会は2023年7月9日、創立45周年の記念総会を早稲田の「リーガロイヤルホテル東京」で開催しました。梅雨の晴れ間の猛暑の中、会員と来賓各位を合わせて183名が集い45周年の節目を祝いました。

練馬稲門会は昭和53(1978)年、初代会長の荻野優氏らが発起人となり設立されました。以来幾多の困難を乗り越え、現在は約500名の会員を擁する都内有数の稲門会となっています。

今日の隆盛を支えているのはまずサークル活動の充実です。ゴルフ、テニス等の体育系に文化教養娯楽系合わせて20のサークルが積極的に会を牽引しています。

また毎年新春に開催している早稲田大学交響楽団(ワセオケ)によるニューイヤークンサートは今年で16回を数え、毎回1,400名の聴衆を集めて地元の恒例行事となっています。

今回の記念総会には萬代晃校友会代表幹事、早稲

田大学菊池馨実理事のほか都内各稲門会代表に加え友誼関係にある慶応、明治、中央、法政の校友会代表も来賓に名を連ね祝意を表して頂きました。

総会はワセオケ弦楽四重奏団のウエルカム演奏に迎えられ午後4時に開会、所定の議事を終えた後、漫画家の弘兼憲史さん(S45法)をゲストに招き「島耕作と早稲田大学」の題で講演をお願いしました。漫研で過ごした学生時代から松下電器での会社員生活、独立してから「島耕作シリーズ」にたどり着くまでのエピソード、また「早稲田ベア」の創作秘話などが時にユーモアを交えながら語られ、会場を沸かせました。

続く懇親会は東京都23区支部金森捷三郎支部長の乾杯でスタート。当会フォークソング愛好会のコーラス、早稲田大学応援部によるスペシャルステージなどが華やかに繰り広げられ「早稲田の栄光」、「校歌」を斉唱、最高齢の華岡正泰様の閉会の辞で盛会の余韻を残しつつ幕を閉じました。(照山 忠利 記)



漫画家の弘兼憲史先生



校歌斉唱

サークル活動の現状と課題(土屋チームリーダーに聞く)

練馬稲門会は現在都内有数の稲門会となり、今年45周年を迎えました。練馬稲門会が隆盛となったのは間違いなくサークル活動が充実しているからだと思います。これも諸先輩が営々と基礎作りに励んでこられたからで、我々にはこの財産を目減りさせることなく更に増やしていく努力が求められています。そこで今回、サークル推進チームの土屋正孝リーダーに現状と課題につきお聞きすることとしました。

(聞き手は広報チームリーダー照山忠利)

●大半のサークルが活動を再開

—まず、サークルの現状についてお伺いします。

土屋 現在正式に登録している団体は18ですが、このほかにもサークル的な活動をしている団体も2、3ありますので、大雑把に練稲のサークルは20程度と言っています。

活発に活動してきたサークルもここ2、3年はコロナ禍のため停滞を余儀なくされてきましたが、このところ大半のサークルが活動を再開しました。長らく休止していた「旅行部会」が5月の大隈祭にあわせて佐賀旅行を実施して成功を取りました。先日の45周年記念総会では「フォークソング愛好会」が短期間の準備で見事なコーラスを披露しました。

●45周年を機に一気の活発化を期待

—今年は45周年の節目の年ですが、これに合わせた催しなどは。

土屋 今までコロナ禍で停滞してきたサークル活動がこれを機に一気に活動のギアを上げてくることが期待されます。

2/12新春の集いに合わせて「山歩き会」がミスター富士山の講演会を、「写真クラブ」が展示会を行いました。7/16には「テニス部会」が元全日本シニアチャンピオンの講演会を開催し、好評を博しました。

また10/31には「ゴルフ部会」が記念大会(60名)を企画しており、12/2には「カラオケ部会」が忘年クリスマスパーティ(50名)を計画しています。

●終生のキャンパスライフを楽しむために

—今年は積極的な活動展開が見込まれるとのことですが、問題点とか課題は何でしょうか。

土屋 サークルによっては高齢化が進む中、部長が一人で孤軍奮闘しており、しかも後継者が見つからないという問題があります。サークル推進チームとしてしっかりサポートする必要があります。

より根本的な問題は練稲会員の中でどのサークルにも属さない人たちが相当程度おられることです。大学でのキャンパスライフは4年間ですが練

馬稲門会は「終生のキャンパス」ですから、ここで自分に合ったサークル活動に参加して幅広い年代の人たちと交流しながら楽しい人生を送って頂きたいと願っています。そのためにはサークルの魅力をわかって頂くよう努力しなければなりません。

土屋正孝チームリーダー



●既存サークルにない新たなジャンルの開拓

—具体的にはどのようなことに取り組みますか。

土屋 月並みなことかもしれませんが、当面次の3点に注力したいと思います。

①サークル活動の積極PR

サークル未参加の方々向けにホームページ、メルマガ等の媒体を活用してサークルの魅力を発信していきます。各サークルでもきめ細かい運営に心がけ、メンバーの満足度をさらに高めて頂きたいと思います。

②新規サークルの立ち上げ

5/23から「働く世代向け交流会」がスタートしました。このような場を通じて現役若手のニーズを探り、新規サークルの立ち上げにつなげていきたい。既存サークルにない新たなジャンルの開拓も必要です。

③新たな活動方法の模索

これは新規サークルの立ち上げの前段階と位置付けます。例えば「映画愛好者の会」というサークルのニーズはあっても、これを仕切るリーダーがいない場合、当面愛好者同士の情報交換の場を開設してサークルとして機が熟するのを待つというものです。

いろいろお話ししましたが、いずれも会員の皆さんにご協力を頂かなければならない事柄ばかりです。今後とも何卒宜しくご支援の程お願いいたします。

マンドリン楽部フルート科卒

高田 興治



早稲田大学マンドリン楽部フルート科卒業、商学部財務会計染谷ゼミ在籍、音楽に埋没した四年間でした。

音楽との出会いは、高校の同クラブで様々な楽器との出会いが初めてでした。一年生の時はギターを先輩から教えてもらい二年になって、楽器の大きさに耐えられず、コンパクトなフルートに乗り換えました。このフルートに夢中になり五〇年以上の歳月が経過したのです。昭和四〇年代は、沢山のジャンルの音楽が流れておりました。

マンドリンクラブというと多くの方が、明大だねと言っていた時代です、古賀政男が指揮棒を振って演奏会が開催された時代でした。明大のマンクラは体育会系で男子部員のみ、一方慶大のマンクラは、女子も多く楽しそうでした。指揮者で作曲家の服部正が、指導していました。それに對して、早稲田は、理工学部出身の赤城淳先輩が、指導にきていて、親しみを込めて赤城さんと呼んでいました。当時は、早慶明三大学マンドリンクラ

ブによる合同演奏会を何回か開催していました。選曲からも、それぞれ大学の個性があり聴衆からは楽しめたのではないかと、思い出しています。明治は、ポピュラー、ラテン、古賀メロデー等レパートリーは広いものでした。慶応はマンドリンオリジナル曲、クラシックのアレンジ等、方向性は早稲田と同じ様でした。違いといえば、指導者のハイカラな服部正、蛮力な赤城淳の違いにあったように思っていました。

昭和四四年の五月に第百回定期演奏会の折、ゲストにボニージャックスを迎えて、やなせたかしのアニメ「空飛ぶライオン」を上演しました。アニメをスクリーンに映してそのシーンの音楽をマンドリンアンサンブルが担当するというものでした。当時は、「あんばんまん」が誕生する以前だったようです。

昭和四〇年代は、フルートの普及がものすごい勢いでした。フランスのランパルが、世界に向け演奏旅行をしておりました。その折、NHKの当時の教育TVで生放送されていた映像を思い出します。曲目も記憶しています。何と美しい音が、感動的でした。そのランパルも他界して新しい世代の演奏家が多く出てきました。最近改めてランパルの演奏を聴きなおすと、彼を超える演奏家はいないなどの思いです。

最近では、音楽仲間の二人ギターの友人と三人で介護施設への訪問演奏を継続して行っています。少し社会貢献できているのかなと思っています。(昭和45年商)

早稲田と半世紀

林 隆司

早稲田大学8号館に初めて足を踏み入れた時から略半世紀が経過した。学院(早稲田大学高等学院)の3年間を含めると、都の西北を校歌としてから半世紀以上の時が過ぎ去っている。時の経つのは年々早く成っている様に思う。

法学部を選んだ理由は弁護士という言葉に魅力を感じ目指したからで、夕刻以降に実施される法職過程教室に通った。だが信念を持って臨んでいた訳ではないので、2年保たずその道から離れて(正直には挫折?)当時の普通の大学生活を謳歌するようになっていた。

その流れで、大学2年の時に学友2人と初めての海外旅行である欧州に行った。私は旅行の計画を話し合っている時、アメリカ行きを提案したが、友人らからアメリカはいつでもも行けるじゃないかと反対され欧州行きに決まった。確かにその通りで、私は2回の駐在でアメリカにその後10年も住むことになった。

その欧州旅行の最初の滞在地は英国ロンドンであった。ヒースロ1からホテルまで自力で移動しなければならぬが、私の語学力と比して友人2人は誰もが知っている進学校出身であっ

たので、私はただ彼らに言葉を任せていれば楽しい旅がおくれると考えていた。しかし、なかなか簡単には進まないもので友人の英語が上手くは伝わらない。間違いなく紙に文章を書いて渡せば完璧であったのだろうが、如何せん発音という高い壁が、当時の日本の語学教育が超えさせてくれなかったのだと思う。

私の出番がそこにはあった。乏しいを通り越して、欠如した単語力であったが、地図を拡げてここに行きたいと必死に少ない単語と日本語混じりで訴えてみた。すると不思議にイメージして貰えたのか、行き方を教えて貰えたのだ。勿論教えて貰った行き方は友人の言葉の理解力があつたから解つたのだが。

その頃の友人とは、社会人らしくなつてお互いそれぞれの場で少しずつ活躍し始めた頃からは10年に一度くらいの細々とした付き合いになっていた。

最近では、お互いに時間も出来たこともあり、頻繁に昼呑みで思い出話や平日ゴルフを楽しんでいる。

今年になって練馬稲門会のメンバーに加えていただいた。殆どの場面で周りには大先輩が大多数を占めており、早稲田を卒業し社会人に成りわたった頃の様なフレッシュな気分を味わわせていただいている。

早稲田の同期、そして先輩方はこれまで半世紀どころか百年以上あらゆる場面で活躍されてきた方々が大勢いらっしゃる事を改めて確認でき、そのような大学を私も卒業したのだと思うと、本当に誇らしいと感じています。

勿論後輩もそしてこれから早稲田を目指す者も150年、200年、そして永遠に大活躍することは疑いのないことだと確信しています。(昭和54年法)

筆者(左)と愉快的仲間たち



潮風まみれのカレッジライフ

福沢 剛



冷戦の終結、ベルリンの壁とソ連の崩壊、湾岸戦争の勃発、国内では昭和天皇の崩御・改元、バブル経済の隆盛から崩壊など私が早稲田で過ごした一時期は、昭和から平成へ移り変わった激動期でした。

入学式の一か月後、体が欲したところが理由で体育会ヨット部に入部します。当時、合宿所は京浜急行線の終着駅・三崎口から徒歩30分の三戸浜にありました(現在は葉山)。

OBの方の別荘をお借りしたその合宿所で40名ほどの部員が共同生活。私はアパートでのひとり暮らしだったので、苦にはなりませんでしたが、通例、合宿は火曜日の夜に集合して日曜日の夜に解散するので授業に出席出来るのが主に月・火だけなのは閉口しました。サラーマン監督でしたので学生による自主運営の合宿生活は、選手権・レース期間を含めると年間200日に及びます。

合宿生活は6時に起床、船を浜に下して艀装のあと朝食を摂り、8時に出艇練習終了の着岸は16時で、風や波、潮の流れなどのコンディションが毎日違う海(相模湾)に季節は関係なく1日8時

間出ていたことになりました。18時に夕食(昼食は海上で)、19時から座学を行い22時に消灯、全てが5分前行動のルーティーンでした。

当時、私たちは関東そして全日本の覇権を争う強豪校で、個人としてはオリンピックの強化選手に選ばれていた者もいました。年間スケジュールは、葉山で開催される春季・秋季の2度の関東学生選手権、早慶戦、同志社戦、東京六大学戦そして11月に全日本学生選手権があり、夏に大学の体育の実技授業で一般学生を教えるのも私たちの役目でした。

私が在学中の早慶戦は2勝2敗でしたが、レースメンバーとして出場した3年時の50回記念大会では、あの森繁久彌氏をはじめ多くのOBの方が観戦に訪れてくださった中で勝利したことを今でも鮮明に覚えています。またこの年は、オックスフォード大学との日英親善ヨットレースを戦い、交流を深めたことも良い思い出です。

関東学生選手権を2度制しましたが、全日本学生選手権では3位が最高位でした。一昨年の東京オリンピックでセーリング競技の海域が、2年・3年時に全日本学生選手権を戦った江の島沖の海域であったこと、後輩の岡田奎樹選手(且30年卒)が出場・入賞を果たしたことは感慨深かったですね。

現在の早大ヨット部は他校の追隨を許さないほど強く、直近の10年間で6度の学生日本一となっており、今シーズンも4連覇を目指して練習に励んでいます。

今ではほとんどヨットには乗らなくなりませんが、海と空の間で仲間とともにライバルとしてのぎを削った、濃密な時間、は、私の人生の中核です。

(平成5年政経)

ワセダ ワセダ ワセダ

菅野 由実



思い出写真は、早大正門の信州そば長谷川のお蕎麦屋(幼馴染の親御さんが経営。閉店後のお蕎麦は小学校時代の特別なご馳走)娘達と。

私は生まれてから約30年間を早稲田で過ごしました。幼少期は早稲田鶴巻町に住み、早大正門通りの歩行者天国をローラースケートで走り回り、大隈記念講堂脇の木陰で演劇や演奏の音を聴き、講堂の扉の鍵穴を覗き見ては「この先になががあるの?」と想像していたチビっ子、十数年後にここに通うことになろうとは! 活気ある昭和レトロな早稲田界隈が私の原点です。

区立早稲田小時代は馬場下町のスーパー三徳の上に住み、穴八幡をこよなく愛し、実業が甲子園出場の際は大喜びで希望に湧きました。商店街には同級生のお店があり閉店後に夕飯をご馳走になることも。思い出すのはあたたかな学生街の下町文化。都立戸山高は文武両道と自由の楽園。高1から部活とバイトと勉学の両立? クラスコンパは戸山公園で朝までオール、放課後は高田馬場のカラオケ館やウエンデイーズで過ごし、幼い双子の弟の保育園のお迎えもこなす超多忙生活。夜年齢を聞かれたらワセダ(早大生)と答えよが、当時の戸山生の常識。私服高校生、恐るべし! 国立理系クラスに在籍するも、気になるのは早大文学部。色々やるのが好きな私は塾代稼ぎで、早

大南門前のコンビニで入試直前まで週3バイトをこなしつつ本番突入というドタバタ劇の中、言霊通り運良く二文に現役合格。女子教育に関心が無く早く勤けとて言う親に対し「二文はこの値段で学士が取れ、徒歩圏で超お得」という説得をしたのを覚えています。(ワセダで良かった!)

大学時代は米式蹴球(アメフト)部で副務を務め、週6東伏見。学業は二の次、バイトは朝と夜中の二刀流、学費も負担。社会人、学生運動時の卒業生、戦前生まれ、転入・地方出身など志高き苦勞人と共に学ぶ日々。厳しい境遇でも言い訳をせず様々なことに興味関心を持ち、生涯学び続ける周囲の姿勢は、その後の人生を考える良い起点に。早慶戦実行委員会では慶応のスマートな発言に対し、ユーモア溢れる早稲田の珍回答が面白く(ワセダ最高!) 体育会の部を超えた連携、絆は強固で「先輩から言われたら、ハイ!」か「イエス!」しかない、先輩は後輩を全力で(色々な意味で)かわいがるといふ思想を徹底的に叩き込まれました。同期ラグビー蹴球部マネとは大親友、月曜のオフは野球観戦で神宮へ。理工部員とは西早稲田の居酒屋わっしょいで実験中に飲み歩き研究室見学、人科の友人の授業聴講で所沢へ、チアの大会応援へ、一人暮らしの友人宅で飲み明かし、卒業式後は袴姿でラグビー早明戦へと寝る間を惜しんで遊んだ4年間。

昨年練馬稲門会に入会し、初めて記念総会に出席しましたが、皆様があたたかくホームへ戻ってきた不思議な感覚。あの頃のワクワクが蘇る生涯の遊び場への入会を勧めてくださいました、石井会長、本当にありがとうございます。練馬稲門会、最高!!

(平成13年二文)

風光明媚な港町・製鉄の街「北海道室蘭市」

喜々津 和夫

●幕末にはペリー艦隊が測量を

室蘭には小学校1年から3年、中学校1年から高校卒業まで都合9年住んでいました。

室蘭に和人が住み着いたのは1600年頃の慶長年間にアイヌとの商取引のために松前藩が「エトモ場所」を設置したことによります。幕末にはペリー艦隊が絵鞆に入港し港内を測量しました。

噴火湾(内浦湾)の東の先端に位置し、白鳥湾と呼ぶ天然の良港を抱えた大変風光明媚な自然が豊富な港町です。東は太平洋に面しており海岸には奇妙な形の岩が多数存在します。魚介類が豊富に獲れ、春・秋のボタンエビをはじめウニ・ホタテ・毛ガニ・アワビ・鮭・カレイ・アブラッコ(アイナメ)



白鳥湾



大黒島(後ろに有珠山・羊蹄山)



金屏風



チキウ岬

等大いに楽しんだものです。

●室蘭の語源は「坂のある街」!?

室蘭の語源はアイヌ語の「モ・ルエラニ」から転化したもので「小さな・下り路」という意味だそうです。小学校の時には「坂のある街」と聞いていました。

産業の歴史としては、明治25年には北海道炭鉄道が道内の石炭を積出港への運搬のため敷設された。明治40年には日本製鋼所が、明治42年には北海道炭鉄汽船(北炭)の室蘭製鉄所(現日本製鉄)が操業開始。

このように古くからの石炭の積出港・製鉄をはじめとした重化学工業港湾都市として発展し、ものづくりの町として栄えてきたので、観光資源は豊富なのですが、観光PRはあまりしていなかったような気がします。

●アイヌ語「チケブ」が「チキウ」の語源

内地から来た人を案内すると、太平洋に面する海岸線を見て感嘆の声を上げていました。大黒島を沖に配した絵鞆半島を東へ回ってイタンキ浜までの海岸には奇妙な形の岩が多数存在します。夕日があたると銀色に輝くところから名づけられた「銀屏風」、その向かい側のトッカリショウ側にある「金屏風」と一対の景色は一見ものです。

その直ぐ脇の崖下のマスイチの浜ではよく泳いだものです(今は危険ということで立ち入り禁止)。南側の先端には「チキウ岬」があります。北海道景勝地等で何度も1位を取ったスポットです。

遙か彼方の水平線は素晴らしい景色で地球が丸いことが実感できます。「地球岬」と書かれることもありますが、「断崖」を意味するアイヌ語「チケブ」が「チキウ」の語源です。



室蘭市紋章の由来

カタカナの「口」を6個で円周をつくり「ムロ」とし、「蘭の花」を図案化して、どっしり大地をつかみ、市の安定を願っています。

(昭和43年理工)

令和5年5月現在

サークル	部長	卒年	連絡先	開催予定日
1 ゴルフ部会	三宅 成嘉	昭51	080-4173-3185	毎月(日は未定、1、2、7、8月休会)
2 歴史ウォーキング部会	八巻 孝夫	昭45	080-5082-0756	七福神巡り他、年6回程度(3~5月、9~11月)、夏冬休み
3 旅行部会	藤沢 礎	昭49	090-4391-7665	年間3回程度
4 麻雀部会	喜々津和夫	昭43	090-1841-4772	奇数月の最終土曜日、年2回近隣会
5 囲碁部会	田辺 攻	昭43	090-4604-8297	毎月最終月曜日、合宿、オール早稲田囲碁大会
6 グルメ会	持ち回り		事務局 070-3526-4179	年2回程度
7 テニス部会(硬式)	白畑 豊一	昭48	090-8818-8552	定例会(毎月第2水曜、第4水曜)、夏合宿(軽井沢)、杉並稲門会との交流戦
8 エッセイ同好会	照山 忠利	昭45	080-1700-1050	年間6回(原則偶数月の第3土曜日)
9 ワセダスポーツを楽しむ会	小島 忠夫	昭41	090-4606-4552	箱根駅伝、野球早慶戦、早明ラグビー、早慶レガッタ
10 カラオケ部会	土屋 正孝	昭45	090-1425-3664	毎月・第3月曜日PM4:00~7:00、ジュニア部会年1回程度(土日)
11 山歩き会	加藤 正彦	昭56	090-5814-0072	毎月1回山歩き・第1水曜日例会
12 写真クラス	高嶋 俊郎	昭43	03-3594-3204	毎月1回、第2水曜日開催
13 酒楽会	森 正治	昭46	090-4361-6656	月末最後の木曜日(年5回)
14 釣り愛好会	松浦 康夫	昭48	090-5507-5100	例会年4回(4、6、10、11月頃)、オフ会=随時
15 料理を楽しむ会	仲山 典美	昭40	080-4357-8665	2か月に1回
16 フォークソング愛好会	鶴山 幹夫	昭40	090-4832-7722	原則として毎月第1火曜日例会(PM1:00~3:00)
17 落語を楽しむ会(落楽会)	土屋 正孝	昭45	090-1425-3664	毎月1回例会(寄席鑑賞)
18 めざましVtuber & TikToker	原田 豊	昭59	090-3234-5584	不定期
未来塾	講師	卒年	連絡先	開催予定日
1 未来塾講演会	テーマ毎		事務局 070-3526-4179	3か月に一度開催

注1) イベント募集案内、活動状況報告はHP (<http://nerima.waseda-info.com/>)、メルマガ、サークル通信をご覧ください。

2) 「めざましVtuber & TikToker」については新設のサークル、次回開催日は未定。